

雲心月性



Camnet マガジンをお楽しみにの皆様。マガジン版「雲心月性」です。いかがお過ごしですか？

大槻は一昨年度から、岡山県真庭郡新庄村の内科診療所で一人医師として勤めています。ワーク・ライフ・バランスも一層整う感じになって、自然と仲良くしています。

このコラムについては、二か月分なのでリアルタイムでは、様子をお伝え出来ません。一年前の様子を中心に。そして、午後休診とか休みの日は、あちこち出掛けてもいます。そんな季節便りを。



7月に入って、岡山県北の散策中、小さな神社で見かけました。バッタ君！ しっかり成長している感じです。



岡山県の三大河川の一つに「旭川」があり上流域の社口ダム湖。合歓がきれいに咲いています。



これは新庄村の様子。稲の花が優しく、ひっそりと咲いていました。



そして、新庄村の総社宮、新庄神社も育ってきた稲に囲まれています。



いわゆる赤とんぼというか、キミは「シヨウジョウトンボ」かな？ 鮮やかな色合いです。



そして、夏野菜の頂き物。長茄子、さらに長〜いピーマン。あれ、ピーマンって甘唐辛子って日本語なの？



そして、夏といえば、向日葵。新庄村の一角にも向日葵畑があって、夏を物語っています。



8月も終盤になると蕎麦の畑に可憐な花が……。季節柄、花々や野菜を、たくさん楽しめますね。

*_*_*_*_*_*_*_*_*_*_*_*_*_*_*_*

さて、オリジナル曲の歌詞紹介。「乾いた夏」は、大槻の作詞作曲です。サブスクなどではリリースしていませんが……。

胸に 焼きついた笑顔 かみしめてみれば すりガラスの 向こうは 乾いた夏

あの日 サヨナラが好きと 冗談はよそう お前の目に 涙が 光った朝

もう 一年も 前のことさ 出逢った街も 去年のまま あの日 逃げた肌を やけに 思い出すよ



きっと 併せにすると 指切りも今は 俺の胸で いつしか 乾いたまま

いつも 眩しさの中で 溶けそうになって この窓辺に 逃げた 去年の夏

あの日 駆け足で過ぎる 夕立の中で お前だけは きまってる 乾いた肌

もう 一年も 前のことさ 陽射しの匂い 忘れてのは あの日 透きとおる 白い肌を やけに 思い出すよ

二人 確かめることに 太陽を捨てた すりガラスの 中には 乾いた愛

二か月分のコラムですので、時事的な話題は避けてしまいますが、疫収束さらに国際平和を祈念しています。

プロフィール 大槻 剛巳 (おおつき たけみ)

新庄村国保診療所で内科医師として勤務
0歳：京都府福知山市にて生誕
14歳：京都府中学校陸上競技大会にて100mハードル2位
14歳：KBS近畿放送AMラジオでリスナーの詩として採用
15歳：倉敷市に転居
15&18歳：NHKあなたのメロディー出演
18歳：YAMAHAポップン全国大会(譜面の部)出場
20歳：YAMAHA神戸との連携で楽曲依頼あり
24歳：川崎医科大学卒業
以降：川崎医科大学血液内科～衛生学にて診療・研究・教育に従事
1992-1996年：米国立大学(医学研究)
1996年：岡山県文学選奨現代詩部門選外秀作として「岡山の文学」に掲載
2009年：Camnet CH-F(10-19)パーソナリティ担当
2021年3月、川崎医科大学衛生学教授を退官。現在に至る